Interview ①

子どもの可能性を信じる

― てるくんのお母さん ―

狛江市のすべての小・中学校には、特別支援教室があります。苦手を抱えて困っていた子が、笑顔になって帰っていく。自分の失敗や困ったことに価値を見つけ、違いを強みに変える。そして、そのひとつひとつの積み重ねが自信になって、自分の将来に大きな夢と希望を抱く。今回、この特別支援教室で、自分の苦手や困ったことを分析し、対処方法を研究する「自分研究」に取り組む小学5年生の「てるくん」と、そのお母さんにお話を伺いました。

―てるくんのことを少し教えてください。

てるは今小学校5年生で、週に2回、小学校の特別支援教室に通っています。

―てるくんは、どのようなことを苦手にしていたのでしょうか。

てるは人と話すことが好きなのですが、自分の中で考えをまとめて話すことが苦手です。あと、そのときに話していいタイミングかどうか見極めずに話し始めてしまったり、話の仕方もいきなり結論を言ったり、さわりの部分だけを繰り返したり、なかなか要点を得ないことがあります。でもたまに良いことも言うんですけどね。

―てるくんが特別支援教室に通い始めたきっかけは。

てるが幼稚園のときに、先生から療育を勧められたのですが、そのときは療育の施設が一杯ですぐに入れなくて、半年待ってから、半年間通ったのですけど、そのときに半年通うだけでは変わらないだろうな、って思ったんです。それで、小学校に入学する前はもうどうしたらいいのか分からないような状況だったんですが、市役所に就学相談に行ったときに「特別支援教室があるから大丈夫。みんなびっくりするくらい変わるから」って言ってもらって。その言葉が私の中にスッと入ってきて。あ、そういうものなんだ、それじゃあもう通わせよう。という感じで、そのまま1年生から特別支援教室に通うことにしました。

―当時、特別支援教室にはどのようなイメージがありましたか。

当時は子育てのそういう情報ってあまりなかったんですね。しかも、てるは他の市の幼稚園に通っていたので、周りから聞けることもなくて。そんな中で小学校に入学したんですけど、でも入学したら当時の特別支援の保護者の皆さんが、特別支援教室を説明する冊子をつくられていて、それを読んで、また私の中でストンと落ちるものがあって。私たちの場合は、初めは情報は少なかったんですけど、少しずつ周りからの情報で納得させていただいた感じです。

―実際に入学してからはどのような感じでしたか。

てるは、それこそぺらぺらとよく喋るし、1年生の初めの頃は、我慢できずにすぐ動いてしまったり、教室からふっと出て行ってしまうこともありましたね。

―てるくん自身もとても苦労した時期があったようですが。

てるが1年生のときは、学校まで自分で行けるかどうか不安がっていたので、私が毎日学校まで付き添ったんですね。それが2年生の半ばまで続いて、それが2年生の後半から1人で行くようになったんですけど、それも本人にとっては多分不安だったんだと思うんですよね。それで3年生になって学校に行きたくない、ってなったんです。毎朝、家を出る前に15分くらいずっと行きたくないなー行きたくないなーって言って、とにかく学校に行きたがらなくて。なんとか学校に行けても今度はなかなか校舎に入れなくて、特別支援教室の玄関から学校に入ったことも何回かありましたね。それでも、唯一、高学年の子が「自分研究」の発表をしているのを見て「俺もこれやりたい。5・6年生しかやってないみたいだから早く高学年になりたい」ということはずっと言ってました。

―自分研究をやりはじめてから、てるくんの様子はどうですか。

他にも色々とあると思うんですけど、自分研究は、筋道を立てて自分のことを分析するんですよね。それがてるにすごく合ってたんだと思います。自分研究をやるようになってからは、まだまだ揺れることはありますけど折れなくなった。戻って来れるというか、なんか芯が太くなったなって思います。

―お母さんとしてもこれまで色々なことを感じてこられたと思いますが、今振り返ってみてどうですか。

去年、他の学校の特別支援教室を利用する1年生の子のお母さんが「うちの子これで本当に大丈夫かしら」ってとても不安がっていたんですよね。それを聞いて、私も同じように思ってたことをふと思い出して。1年生の頃は、授業中に椅子をずっとガッタンガッタン揺らしていた子が、今、4年生になってきちんと座って先生の話が聞けて、しかもみんなの前で堂々と発表できるようになって。あと、「わー」ってなってしまった下級生を落ち着かせたりしている姿を見て、本当にここに通わせて良かったなって思いました。ですから、そのお母さんに「大丈夫。きっと変わりますから」って伝えました。多分、そのお母さんも同じくらい年数が経てば、きっと同じことを他のお母さんに言うんだろうなと思いながら。最初は、特別支援に関する情報も本当に少なかったし、どうなのかな、本当に大丈夫なのかなって不安に思うこともあったんですけど、てるのことをずっと励まして、引っ張ってくれる先生がすぐそばにいる時間があったのが良かったんだと思います。親ではなく、先生という第三者的な立場の人から褒めてもらったり、叱ってもらったりすることが、すごくてるの自信になって、それで変わっていったのかなって思います。

―狛江市の特別支援教室や学校が、これからこうなっていくといいなと思うことはありますか。

特別支援の先生をもっと増やしてほしいですね。今は先生たちも結構きついんじゃないかなと思うんです。特別支援に通う子って増えていると思うんですけど、今の状態だと、親がうちの子を通わせたいと思っても、先生の方がいっぱいいっぱいのような気がしていて。特別支援教室に入るきっかけはいろいろあると思うんですけど、そのきっかけがあったとしても、入口の門がきちんと開いてないと通うのも難しいし、反対に子どもをたくさん詰め込んでも、先生の方が少ないと子どもをフォローしきれなくなるじゃないですか。ですから、特別支援教室の先生を増やしてほしいですね。あと、特別支援から通常学級の担任になる先生が増えるといいなと思います。特別支援でフォローしきれない子も見ることができるので。やっぱり特別支援でやっていることは、本当は他の先生もみんな知ってて欲しいって思うんですけど、でも、学校の先生って、今すごく大変ですよね。もちろん通級の子どもたちだけではなくて、固定学級の子どもたちもそうですし、先生だけでなく、親としても知っていなければいけないこともあるので、親が家でできることとか、もっと色々なことを知る機会があればいいなと思いますね。

そのお母さんに
「大丈夫。きっと変わりますから」って伝えました。

インタビューの全文は、教育委員会のホームページでご覧いただけます。▼

Interview ②

仲間がいるから頑張れる

― てるくん ―

―てるくんはいつから特別支援教室に通っていますか。

1年生のときから通ってます。今は、火曜の1・3時間目と、金曜の4時間目に来ています。

―特別支援教室ではどのようなことをしていますか。

チーム授業とか個別とか色々あるんですけど、前やったことの振り返りをしたり、トランポリンとかを使って運動したりします。あと、悩んでいることを先生に相談したりもできるので、楽しみながら勉強しています。それと、自分研究をしています。

―自分研究はどのようにするのですか。

自分研究は、自分の苦手なこととかを研究するものなんですけど、まずみんなと一緒に困っていることを話し合って、それを分析して、調べていきます。僕の場合は、しゃべりすぎて相手も自分も困ってしまったことがあったので、そのしゃべりすぎてしまうことを、「ペラペラノドン」という名前のキャラクターにして、そのペラペラノドンへの対処方法を考えました。

―今は自分研究はしていないのですか。

4年生の時に、クラスで発表したら結構みんな感心して、その後、友達から、自分研究の依頼が殺到したんです。なので、クラスの友達の分の研究もしています。

―クラスの友達の分析の結果はどうでしたか。

今は、ときどきクラス全体がとげとげちくちくした雰囲気になってしまうときがあって、それを研究しています。実際に研究してみると、男子と女子とか性別によっても違うんですけど、緊張とかイライラとか、やっぱりアクセルとブレーキ系のものが多いですね。緊張してブレーキがかかりすぎていたり、反対に何か起きると止まれなかったり。すべてにおいてアクセルとブレーキのかけ方なので。

―特別支援教室に通っていて、てるくんの中で何か変わったところはありますか。

気持ちが少し楽になりました。それまでは疲れて学校に行きづらくなる日もあったんですけど、落ち込みにくくなりました。それと、仲間がいるから頑張れるということも気づきました。今は一緒に研究してくれる友達と、みんなで困っていることを話し合ったりして、楽しく研究しています。

―特別支援教室の良いところを教えてください。

友達の良いところに気づけます。クラスでは知ることができなかった意外な良い一面を発見した後は、その友達と何かあっても、まあ次から気を付けてくれればいいかという気持ちになって、許してあげられることが増えました。前より落ち着いていられるようになった気がします。

―てるくんの将来の夢は何ですか。

研究者になることです。自分研究をしているうちに、自分は研究が得意なんだと気づきました。

―もうすぐ6年生ですね。

先生からは、卒業しても来れる日には来ていいよ、って言われてます。だから中学生になっても、もし新しい発見とかがあったら、後輩のみんなのために来るつもりです。

①個別学習の時間。集中して取り組むして分析する　②「ペラペラノドン」苦手なことを自分から切り離し、キャラクター化　③てるくん。みんなのムードメーカー

子どものきもち、分かってあげられていますか。

みなさんのまわりに、このようなことに困っている子はいませんか。
誰にも言わないけれど、その子は心の中でこう思っているかもしれません。

「ずっと言えなかったコト」は、特別支援教室の子どもたちの実話をもとにしています。
他のエピソードは、動画（Youtube）でご覧いただけます▶